

広島県経済の動向

令和6年1月24日
商工労働局

目 次

I	経済動向の概要	1
1	国内経済の動向	
2	広島県経済の動向	
II	県内主要製造業の生産動向	3
1	鉄鋼	
2	自動車	
3	造船	
4	一般機械	
5	電気機械	
III	中小企業の動向	5
1	概況	
2	景況感・景況感の変化	
IV	企業倒産状況	6
1	概況	
2	業種別	
3	原因別	
4	今後の見通し	
V	最近の雇用失業情勢	7
1	県内の有効求人・求職の動向	
2	県内の新規求人・求職の動向	
3	県内の人員整理の状況	
4	完全失業率の状況(全国・県内)	

(注)「広島県経済の動向」は、国、その他機関等から発表される各種指標を編集、加工し、とりまとめたものです。

I 経済動向の概要

1 国内経済の動向

(1) 概要

指 標	R5年		
	10月	11月	12月
基調判断	景気は、緩やかに回復している	景気は、このところ一部に足踏みもみられるが、緩やかに回復している	
輸 出	このところ持ち直しの動きがみられる		
生 産	持ち直しの兆しがみられる		
設備投資	持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる	
雇用情勢	改善の動きがみられる		
個人消費	持ち直している		
住宅建設	このところ弱含んでいる	弱含んでいる	
企業収益	総じてみれば改善している		

(2) 先行き

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

【内閣府「月例経済報告」（令和5年12月19日公表）】

2 広島県経済の動向

(1) 概要

指 標	R5年		
	10月	11月	12月
基調判断	緩やかに回復している		
輸 出	供給制約の影響が和らぐも、持ち直し基調にある		
生 産	緩やかながら持ち直し基調にある		
設備投資	緩やかに増加している	増加している	
雇用情勢	全体として緩やかに改善している		
個人消費	緩やかに回復している		
住宅投資	横ばい圏内の動きとなっている	横ばい圏内で推移している	

(2) 県内の経済の先行き

先行きの景気は、緩やかな回復が続くことが期待されるが、海外経済の動向や物価動向、供給制約などが県内の経済金融情勢に与える影響を一層注視していく必要がある。

【日本銀行広島支店「広島県の金融経済月報」（令和6年1月24日公表）】

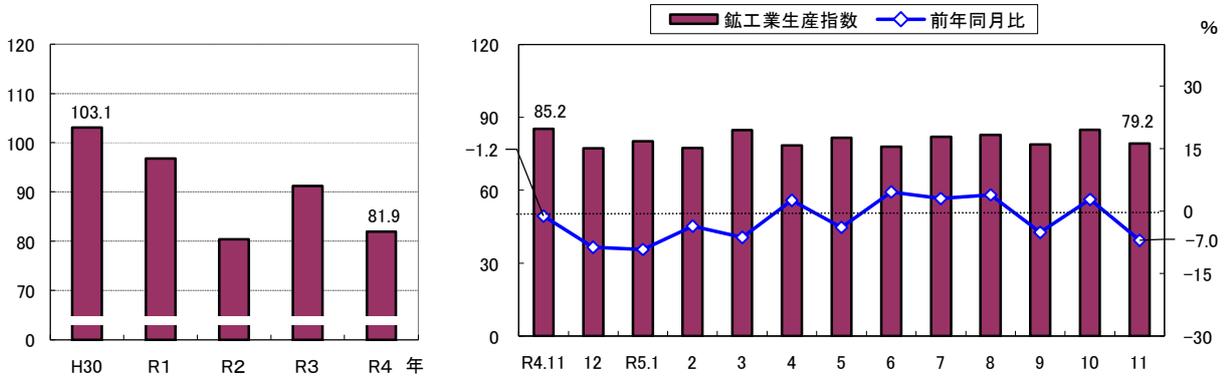
II 県内主要製造業の生産動向

1 鉄鋼(令和5年11月)

11月の鉱工業生産指数(鉄鋼業、原指数、速報値、平成27年=100)は79.2で、前年同月比で7.0%減少となっている。

鉱工業生産指数(鉄鋼業)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

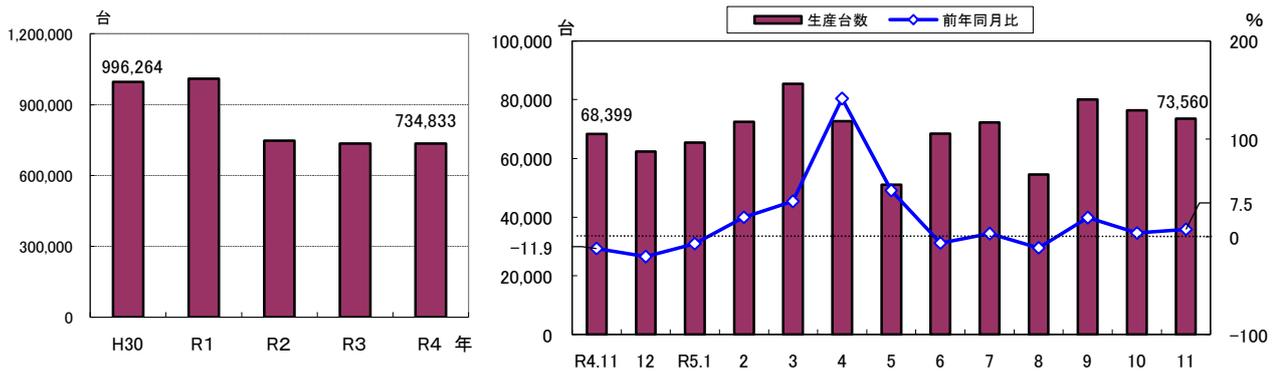


2 自動車(令和5年11月)

11月の国内生産台数は73,560台で、前年同月比で7.5%増加となっている。

自動車生産台数(年別、月別・前年同月比)

【マツダ(株)】

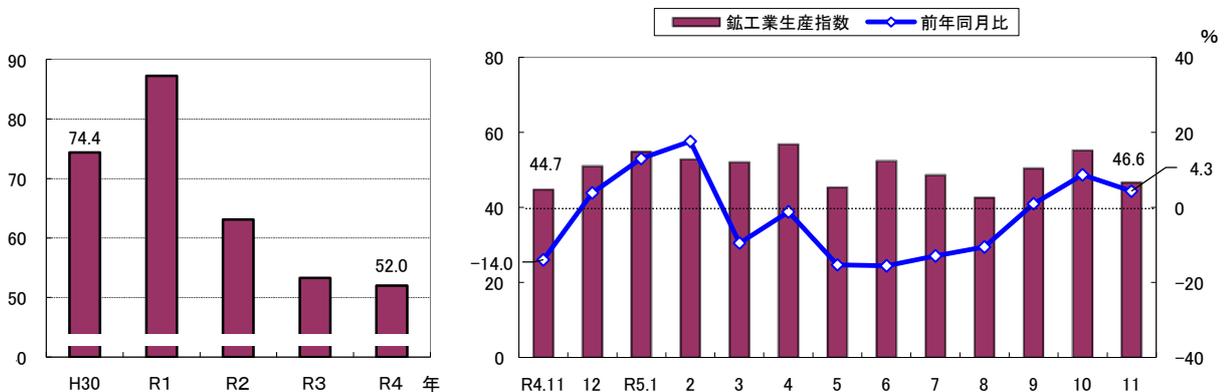


3 造船(令和5年11月)

11月の鉱工業生産指数(造船部門、原指数、速報値、平成27年=100)は46.6で、前年同月比で4.3%増加となっている。

鉱工業生産指数(造船部門)(年別、月別・前年同月比)

【県統計課】

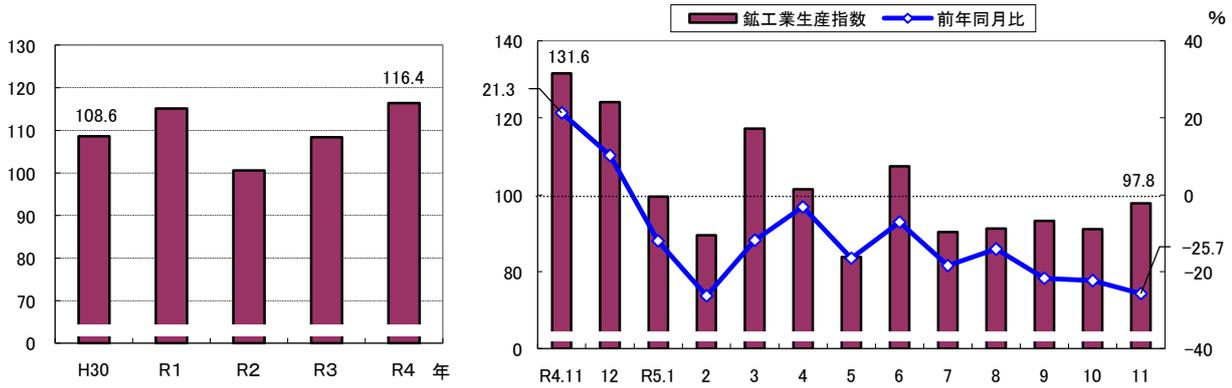


4 一般機械(令和5年11月)

11月の鉱工業生産指数(一般機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は97.8で、前年同月比で25.7%減少となっている。

鉱工業生産指数(一般機械(総合))(年別・月別・前年同月比)

【県統計課】

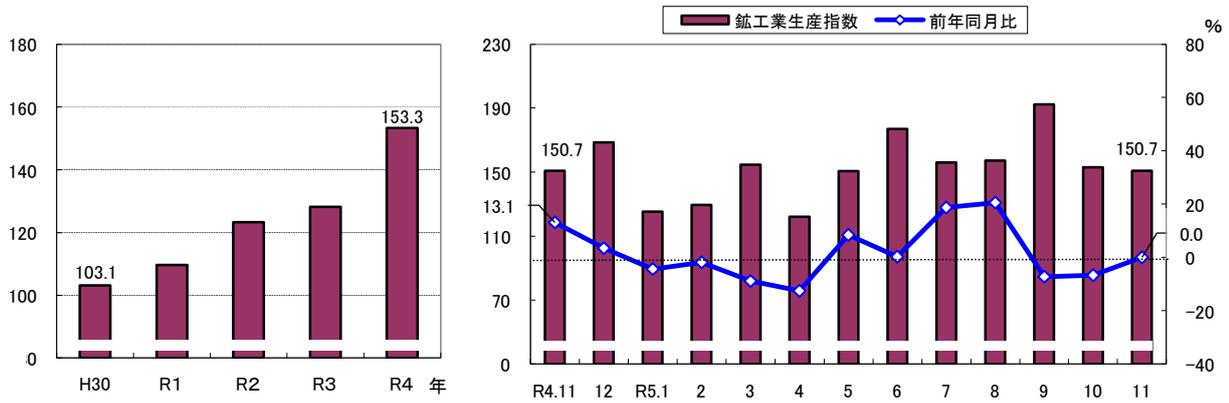


5 電気機械(令和5年11月)

11月の鉱工業生産指数(電気機械工業(総合)、原指数、速報値、平成27年=100)は150.7で、前年同月比で変わりはない。

鉱工業生産指数(電気機械工業(総合))(年別・月別・前年同月比)

【県統計課】



Ⅲ 中小企業の動向(令和5年11月)

【広島県中小企業団体中央会（令和5年12月15日時点）】

1 概況

一部の業界では、売上や生産等の回復が見られるものの、広島県内の中小企業の多くは、円安の進行、原材料・運賃・燃料代、人件費等の上昇が収益性を悪化させており、厳しい経営状況が続いている。

自動車関連業種では、国内自動車販売台数は411千台、前年同月比+9.0%と15ヶ月連続で増加。マツダ車は+13.6%と増加となった。

また、木材業界では、11月の全国新設住宅着工戸数は66,238戸で前年同月比▲8.5%。県内の11月の新設住宅着工戸数は1,237戸で、前年同月比▲23.8%となった。

※マツダ車に関する記載はマツダ（株）が発表する「11月の生産・販売状況について（速報）」に基づく

※木材業界に関する記載は11月分のデータを掲載

2 景況感・景況感の変化

業種	10月の景況感	11月の景況感
食料品	やや悪い	やや悪い
繊維・衣服	やや悪い	普通
木材	普通	普通
家具	やや悪い	やや悪い
印刷	普通	普通
化学	やや悪い	普通
プラスチック製品	やや好況	やや好況
土石製品	悪い	悪い
鉄鋼(鋳物)	やや悪い	普通
金属製品	普通	普通

業種	10月の景況感	11月の景況感
一般機械器具	普通	普通
電気機械器具	悪い	悪い
自動車部品	普通	普通
造船	普通	普通
建設	普通	普通
トラック輸送	やや悪い	やや悪い
内航海運	やや悪い	やや悪い
卸売	普通	やや悪い
小売	やや悪い	やや悪い
情報サービス	普通	普通

(単位：業種)

景況感	10月	11月	増減
好況	0	0	0
やや好況	1	1	0
普通	9	11	2
やや悪い	8	6	▲2
悪い	2	2	0

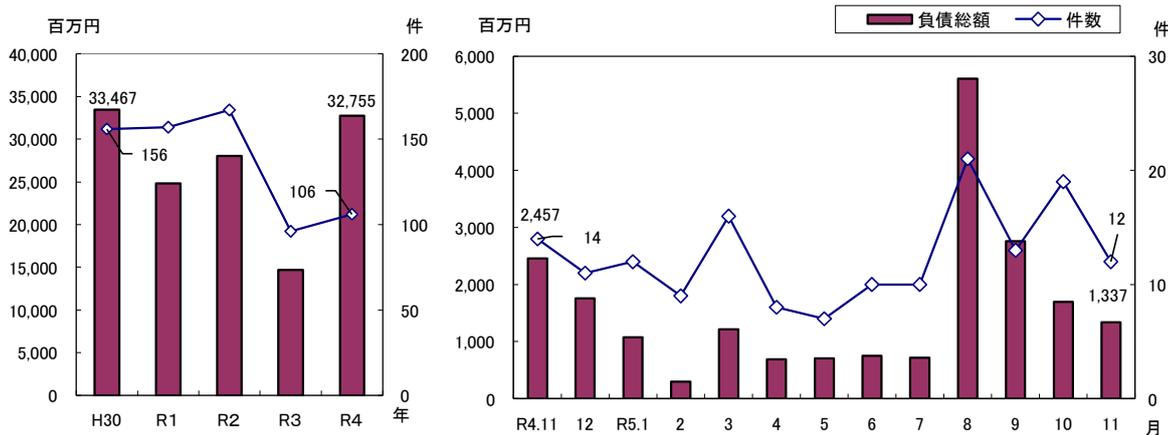
IV 企業倒産状況(令和5年11月)

1 概況

- ・負債総額1,000万円以上の倒産は、件数が12件、総額13億3,700万円であった。
- ・前月比で件数は7件減少し、負債総額は3億5,600万円減少した。
- ・前年同月比では、件数は2件減少し、負債総額は11億2,000万円減少した。
- ・大型倒産(負債総額10億円以上)の発生はなかった。

区分	令和5年9月	令和5年10月	令和5年11月
件数 (前年同月比)	13件 (116.7%増)	19件 (216.7%増)	12件 (14.3%減)
負債総額 (前年同月比)	2,762百万円 (1,831.5%増)	1,693百万円 (21.1%増)	1,337百万円 (45.6%減)

企業倒産件数・負債総額(1,000万円以上)(年別、月別・前年同月比)



2 業種別

件数は、サービス業が6件、卸・小売・飲食業が3件、建設業が2件、製造業が1件となった。負債総額では、サービス業、卸・小売・飲食業、建設業、製造業の順となった。

3 原因別

原因別では、販売不振が7件、他社倒産の余波が3件、過小資本、既往のシワ寄せが各1件であった。

4 今後の見通し

令和5年11月度の倒産件数は12件となり、前年同月比を下回ったが11月度としては令和2年以降では2番目の件数となり、依然として倒産は増勢傾向にある。

業歴別倒産状況では30年以上が3件、20年以上30年未満が1件、10年以上20年未満が5件と業歴10年以上の倒産が全体の75.0%を占め、前月10月度では業歴10年以上の倒産が全体の78.9%と比較的業歴の長い企業の倒産が続いている。

原因別にみると販売不振が7件で最多となり、既往のシワ寄せは1件で、売掛金回収難は無かったが、これらを合計した不況型倒産は8件で全体の66.7%を占めた。なお、他社倒産の余波は3件、運転資金の欠乏は1件となり、グループ企業を持つ企業の倒産も目立った。

そのような中、新型コロナウイルスを要因とした倒産は11月度12件中2件発生し、これまでの累計は176件(負債総額1,000万円以上かつ弁護士一任・準備中を含む)となり、このうちゼロゼロ融資を利用した企業は2件となっている。

新型コロナウイルス感染症拡大が収束に向かう一方、コロナ関連の融資や補助金に依存した企業の倒産が断続的に発生している。更には建設業や運輸業で時間外労働の上限規制が適用される「2024年問題」は、多くの業界、企業で「マイナス」影響が発生すると予想される。上限規制の適用まで半年を切り、行政が主導で様々な対策が進められている。

運輸業は、外国人労働者の在留資格である「特定技能」に自動車運送業を追加し、深刻な人手不足を補う施策が検討されている。また、輸送手段を鉄道やフェリーなどに転換する「モーダルシフト」を進め、自動車による長距離配送を減らす目標も掲げられている。一方、荷主側の取り組みでは、段ボール箱などのバラ積み貨物をパレタイズし、荷待ち時間の削減やドライバーの荷役負担の軽減に取り組む企業もみられる。

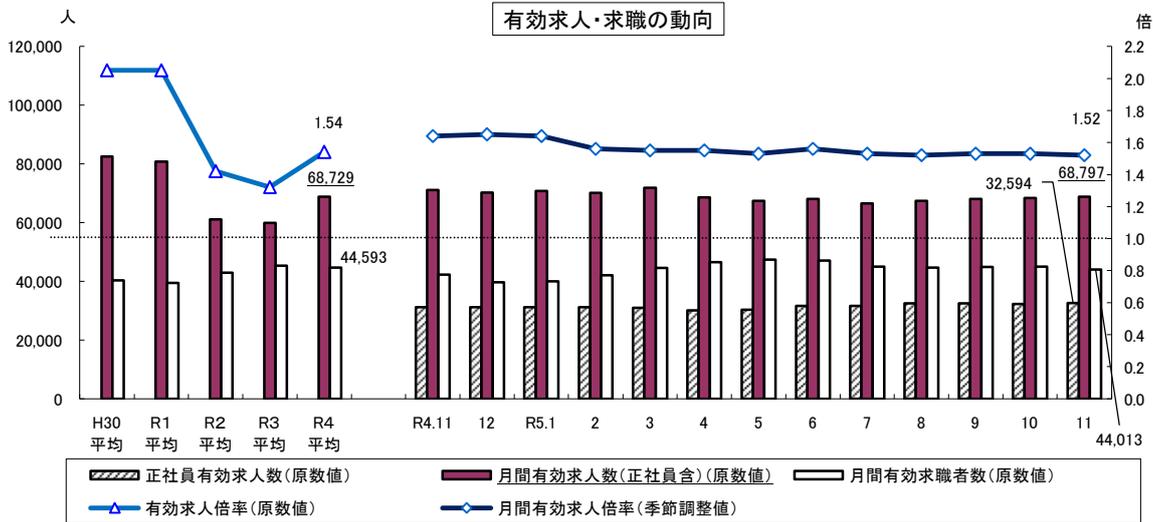
時間外労働の上限規制を前にして、様々な産業への「マイナス」の影響が議論されているが、これまでは運輸業者や建設業者がこうした負担を長時間労働で肩代わりしてきた実態がある。今後は一部の産業、企業に負担を強いるのではなく、産業界全体で負担を共有し、軽減するための取り組みを進めることが求められる。

V 最近の雇用失業情勢(令和5年11月)

1 県内の有効求人・求職の動向

区 分	令和5年9月	令和5年10月	令和5年11月
有効求人倍率(季節調整値) (前月比)	1.53倍 (+0.01ポイント)	1.53倍 (+0.00ポイント)	1.52倍 (▲ 0.01ポイント)
正社員有効求人倍率 (前年同月比)	1.21倍 (+0.02ポイント)	1.21倍 (▲ 0.01ポイント)	1.26倍 (+0.01ポイント)

【広島労働局】

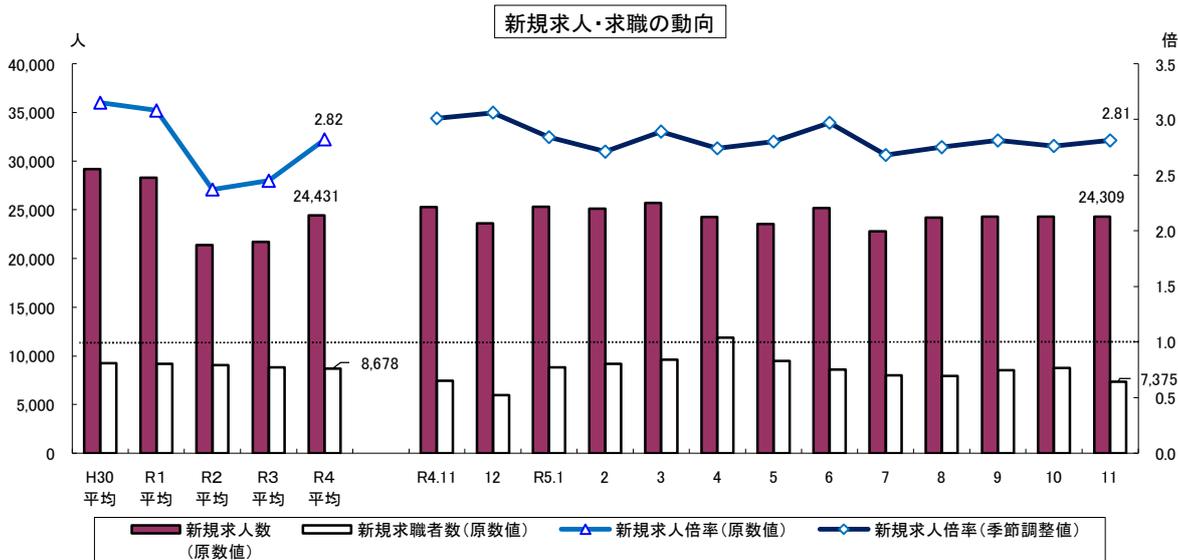


- (注1) 正社員有効求人倍率は、正社員の有効求人数をパートタイムを除く常用有効求職者数(派遣労働者や契約社員を希望する者も含む)で除して算出しているため、厳密な意味での正社員有効求人倍率より低い値となる。
 (注2) 正社員有効求人倍率は、季節調整されていない。
 (注3) 令和4年12月以前の季節調整値は改訂されている。(令和5年1月分公表時改訂)

2 県内の新規求人・求職の動向

区 分	令和5年9月	令和5年10月	令和5年11月
新規求人倍率(季節調整値) (前月比)	2.81倍 (+0.06ポイント)	2.76倍 (▲ 0.05ポイント)	2.81倍 (+0.05ポイント)

【広島労働局】

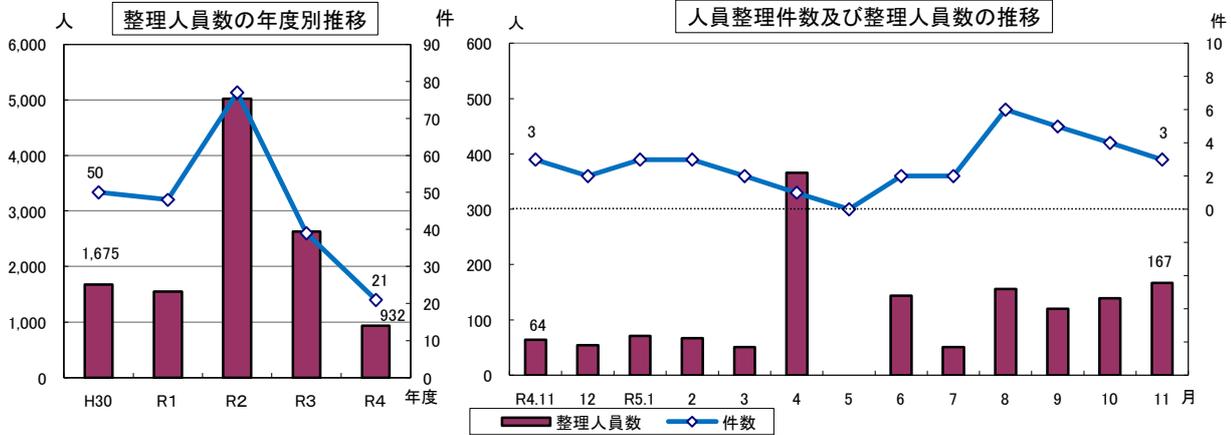


- (注) 令和4年12月以前の季節調整値は改訂されている。(令和5年1月分公表時改訂)

3 県内の人員整理の状況(整理人員10人以上)

区分	令和5年9月	令和5年10月	令和5年11月
件数 (前年同月比)	5件 (+ 5件)	4件 (+ 1件)	3件 (± 0件)
整理人員 (前年同月比)	120人 (+ 120人)	139人 (▲ 361人)	167人 (+ 103人)

【広島労働局】

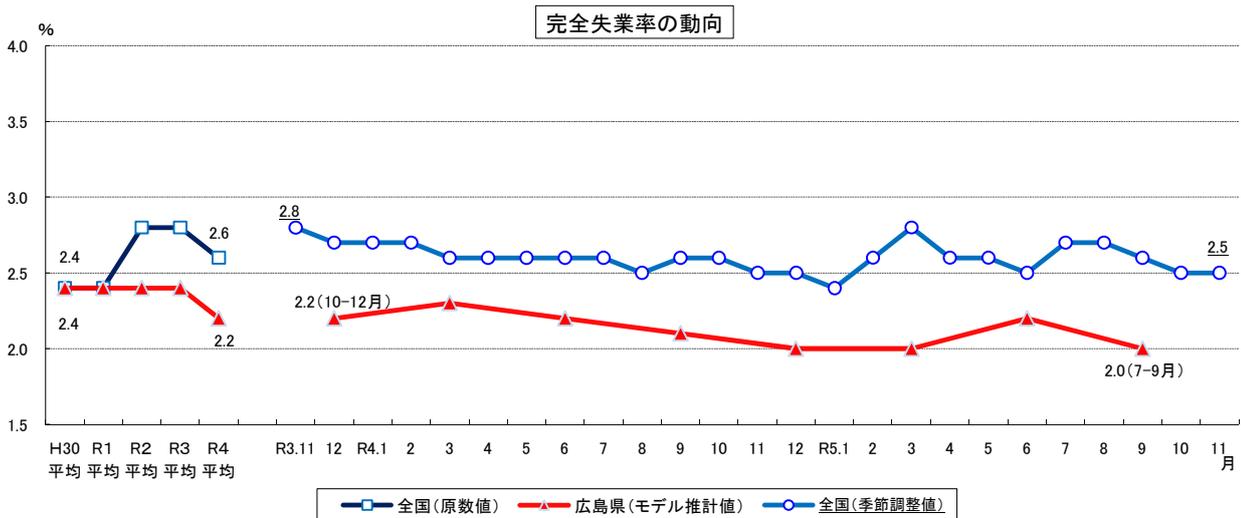


4 完全失業率の状況(全国・県内)

区分	令和5年9月	令和5年10月	令和5年11月
全国完全失業者数 (前年同月比)	182万人 (▲ 5万人)	175万人 (▲ 3万人)	169万人 (+ 4万人)
全国完全失業率<季節調整値> (前月比)	2.6% (▲ 0.1ポイント)	2.5% (▲ 0.1ポイント)	2.5% (±0.0ポイント)

区分	令和5年		
	1~3月平均	4~6月平均	7~9月平均
広島県完全失業率 <モデル推計値> (前年同期比)	2.0% (▲0.3ポイント)	2.2% (±0.0ポイント)	2.0% (▲0.1ポイント)

【総務省統計局】



※ 広島県(モデル推計値)は、毎年1~3月期平均公表時に、新たな結果を追加して再計算を行い、前年までの四半期平均及び年平均結果を過去にさかのぼって一部改定している。